



# ご近所走馬灯隊?

by うさお



いよいよ怪しくなってきた「ご近所トマソン隊」！思い出に浸り懐かしいものばかりを追い求めているトマソン隊は、もはや老人クラブのそのように渋茶を啜りながら「昔や、良かったね～！」って、ぼそっと呟いているようです。（最近のご老人はこんな殊勝な方はほとんど居ないようで、豪快な笑いとともに甲高い声が飛び換わっています。うさおだけが老人か！隅の老人も居たか！）



こんなんでも良いの！ライ隊員

前々回の補稿の項で高田渡さんのことを書きましたが、亡くなられちゃいましたね。今年の4月16日のことで、なんと享年56歳でした。うさおより若くして逝くなんて・・・頓証菩提南無阿弥陀仏（あれ、確か家のご宗旨は浄土真宗だったか・・・??? 良いのかな、これで）

うさおは特に高田渡さんの「生活の柄」が大好きでした。当時は岡林信康や加川良が好きで、これらのライブに高田渡さんが参加されており、聴衆にワンフレーズづつ教えながら歌っておりました。この詩は山之内獺のもので、先般、TBSの「ニュース23」で筑紫哲也さんが高田渡さんの住居に訪れ、そこで山之内獺の秘蔵本を見せられると、筑紫さんも僕も獺のファンなんですと高田さんと酒を酌み交わしていました。高田渡さんは酒で寿命を縮めたのかな。

この「生活の柄」は若い時から心惹かれる歌なので、注釈ではなく本文に紹介しておきます。

「生活の柄」 詩：山之内獺 歌：高田渡

歩き疲れては、夜空と陸との隙間にもぐり込んで  
草に埋もれては寝たのです。ところかまわず寝たのです  
歩き、疲れては、草に埋もれて寝たのです  
歩き疲れ、寝たのですが眠れないのです

近頃は眠れない。陸を敷いては眠れない  
夜空の下では眠れない  
揺り起こされては眠れない  
歩き、疲れては、草に埋もれて寝たのです  
歩き疲れ、寝たのですが、眠れないのです。



屏風ヶ浦の空と陸 鳥ではなく飛行機

そんな僕の生活の柄が夏向きなのでしょうか  
 寝たかと思うと寝たかと思うと  
 またも冷氣にからかわれて、  
 秋は秋からは、  
 浮浪者のままでは眠れない。  
 秋は秋からは、  
 浮浪者のままでは眠れない。



田谷の洞窟 定泉寺

最近ではTICAさんや由佳ちゃんの方が、トマソンしてて、こちらはといえば名所旧跡巡りやマニアックな話題ばかりです。

だって、ネタが無いんだもの。今回もそうだよ！前から行きたかった「田谷の洞窟」の話です。

以前、隧道ネタ（トマソン隊 No.3）でやりましたが、本当は洞窟が天然のもので、隧道が人工のもの。だから、「田谷の隧道」が本当だと思うけど、どうでも良いかな。猿島や観音崎の隧道が面白く思うのは、それが人が造った戦争遺跡だからでしょう。

隧道の項で、日吉の海軍地下壕跡を紹介しました。今回も、湘南地帯に広がる地下



壕跡を総て探検してから紹介したかったのですが、手持ちネタがない。それはまた、グリコちゃんにも協力してもらって、と言うことで……。(^\_^;)サテ、イニナマカ社……

三浦半島の黒崎洞窟、**観音崎洞窟**、**猿島洞窟**、江ノ島弁天洞窟（赤字：データ有）など……「くじらぼ」も見たいなあ。

と言うわけで、「田谷の洞窟」です。戦争遺跡じゃありませんから、あまりそう言った期待はしていませんでしたが……。



定泉寺境内 弘法大師像がある



この潜り戸の向こうに滝がある

こちらが洞窟！

いや、言ってみたら面白いのなんのって、これ、一見の価値はあります。多分、ここは日本の中でも最大級の真言密教の地底伽藍だと思います。

どうでも良いんですけどこの辺りは、東京の某所と似た名前がありますね。

ここは横浜市栄区田谷町。近くに鎌倉というロケーションです。

田谷の洞窟は丘陵台地の段差のところにあるお寺さん（定泉寺）にあります。庭はそんなに広くありません。お墓は片隅に寄せられ、なにか狭苦しい位です。しかし、洞窟のある台地の上は総てお寺さんのものでしょう。へたに台地の上の開発をされると洞窟の落盤に繋がってしまいますからね。そうだとすると広いね。

このお寺さんの正面にある陶器工房の女将さんに聞くと、昔は犬も抱けば入れたらしいのですが、ライ隊員は重いのでどっちにしるだめです。

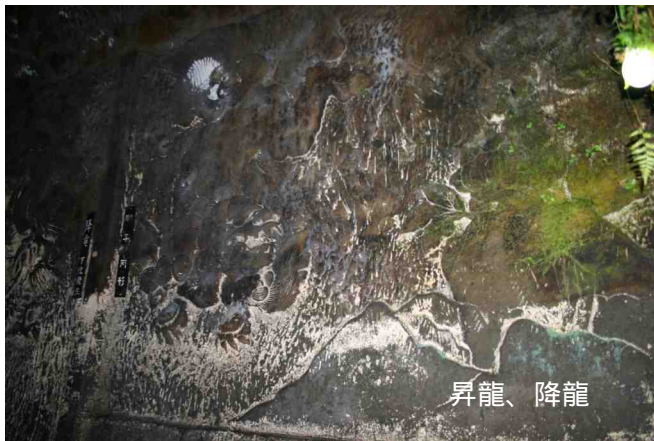


また待つんかい、えっ



この狭いお寺さんの庭に、何ということでしょう、あろうことか、20メートル位の高さの滝がありました。（ビフォー・アフターのようだ）吃驚して、うまく写真には撮れませんでした。

この台地は三浦層群と呼ばれる堅い泥岩（土丹）です。地盤改良をする時に、土とセメントを交ぜて作るソイルセメントという物がありますが、ほぼそれと同じくらいの強度をもっています。この岩は、湿っている時は強いのですが、



昇龍、降龍

風化して乾くと普通の土に戻ってしまいます。まあ、海底に積もった土が長い間、水圧を受けて固まったものですからね。土の中には150万年前の貝の化石などが見られます。

取り敢えず、入ることにして見ましょう。拝観料を払うと小さな蠟燭を渡されます。1kmに及ぶ洞窟の中で明かりが無いのは不安で、少しびびります。入り口近くに火を点けるための蠟燭が灯っています。気が付くと洞窟の内は、至る所で蠟燭が灯っています。

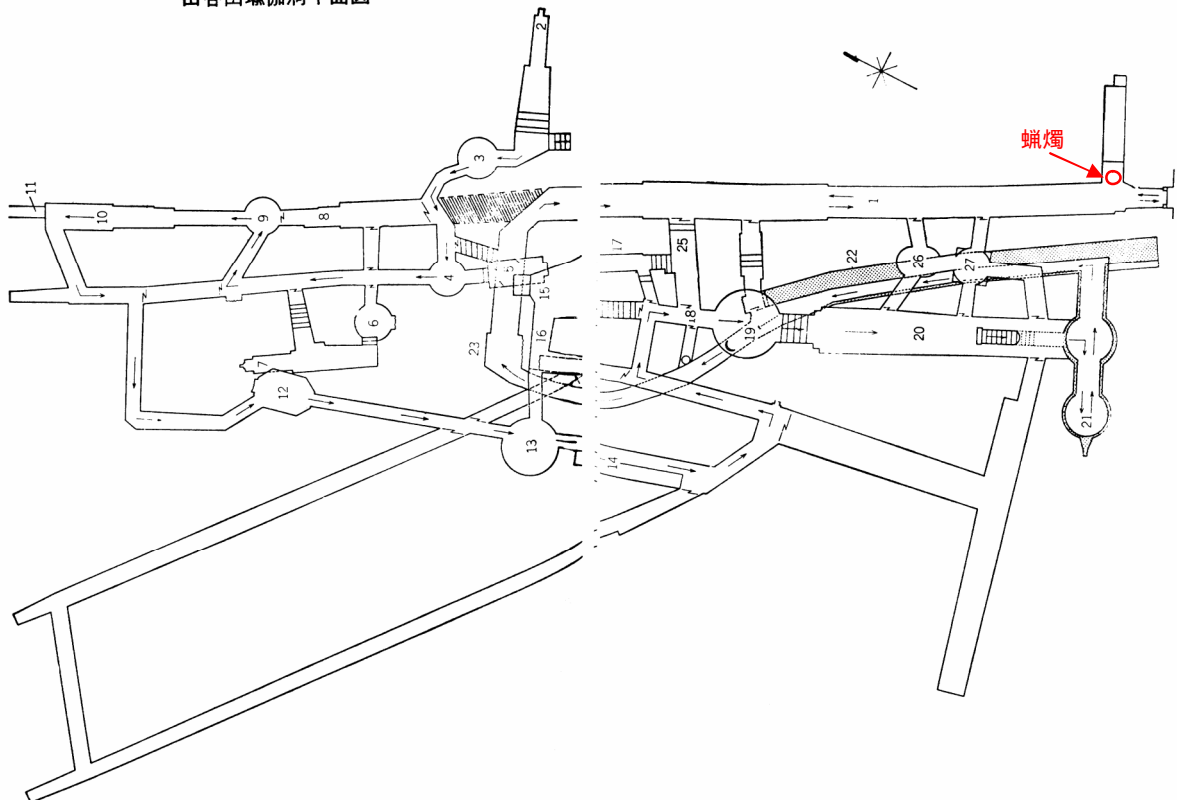
誰がメンテしているのでしょうか。数時間おきに入っているんでしょうかね。私達の前に入っていたのは、小学生とその父親でした。

この洞窟のアウトライン配置図を示しておきましょう。サンフラワークラブと早稲田大学理工学部の探検したものが残っていますが、判り易いのでサンちゃんのを示します。図中になるだけ拝観位置が判るように丸番号を付けましたが、まるで当てにしないですね。

参考文献：田谷の洞窟、吉田孝 宗教工芸社

参考文献は、お寺さんで売っています。ガラスウィンドウの中に色んなものが値札を付けておりました。( ^\_^ )/~

田谷山瑜伽洞平面図



(サンフラワークラブ調査)

## 洞窟内彫刻と尊像の説明

- 一、阿畔の獅子・昇龍、降龍、定紋（天井）金翅鳥（迦楼羅）
- 二、旧薬師堂
- 三、十二神将（十二支）、三つ蝙蝠（天井）
- 四、秩父三十四観音霊場（一番～一六番）、迦陵頻伽（天井）
- 五、秩父三十四観音霊場（一七番～三三番）（三四番欠）
- 六、金剛界種子曼荼羅、鳥の羽（天井一部崩落）
- 七、朝比奈弁才天
- 八、安達ガ原の鬼女、足柄山の山姥と金時
- 九、西国三十三観音霊場（一番～一七番）道草（天井、崩落）
  - 一、曾根天満宮と高砂の松、西国三十三観音霊場（一八番～三三番）
  - 一二、厄除大師、御霊社への裏参道（途中崩壊）
  - 一二、胎蔵界種子曼荼羅、鶴と麻葉紋（天井）
  - 一三、一顧弘法大師 うさぎ定紋（上段）天井崩壊、四国八十八霊場（六六番～七七番、七八番～八八番）
  - 一四、大師堂脇陣
  - 一五、奥の院岩屋聖天尊
  - 一六、四国八十八霊場（二四番～二五番、二六番～三〇番、三一～三六番、六一番～六五番）
  - 一七、六地藏、七薬師
  - 一八、日天
  - 一九、四国八十八霊場（一番～二三番）、四十九院種子曼荼羅 月天
- 二〇、修行道場
  - 二一、お水大師、瑤陀山一つ亀、高野山石童丸、雲中供養菩薩（天井）
  - 二二、十八羅漢、音無川
  - 二三、安鎮国家不動明王（岩屋不動）
  - 二四、坂東三十三観音霊場（一二番～三三番）
  - 二五、鳳凰、孔雀
  - 二六、花と唐草（天井）
  - 二七、十六羅漢 部分は崩落



天井の家紋

突然 CACCO の叫び声。洞窟の中に入るのに新調の帽子を被って来たらしい。それが汚れちゃったとか。怖いじゃないか！

次々と出てくる地底の迷路、ラビリンス。しきりに CACCO は、この近所の小学生は遠足で来るべきよねえって言ってました。

昇龍、降龍が掘られている像の所までできました。なるほど、真言密教のような絵柄が見えます。ちょっと感激。天井に家紋が、剣方喰は家の紋。でも、まだ鳥羽口です。

行者道のほうに迂回して見ます。鍾乳洞じゃ無いけれども、結構洞窟探検はドキドキします。



訳の判らん横穴、祟りそうじゃ



十二神将



朝比奈弁財天



胎蔵界種子曼荼羅



胎蔵界種子曼荼羅



感心するうさお



入口を望む



地下水道



四十九院種子曼荼羅



一顧弘法大師



四十九院種子曼荼羅



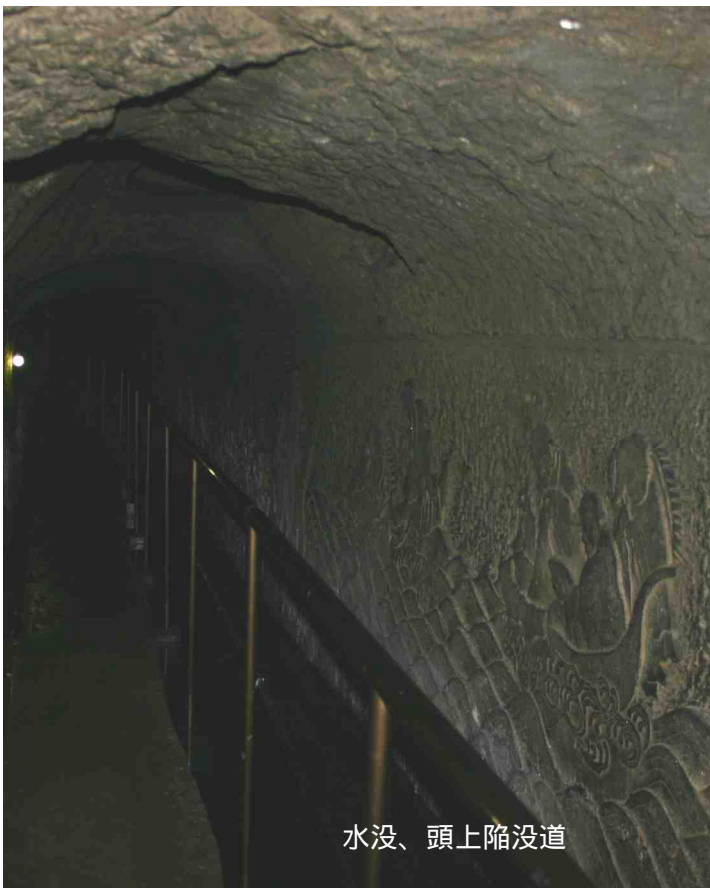
四十九院種子曼荼羅



修行道場



瑤陀山一つ亀



水没、頭上陥没道

洞窟内には裸電球が灯っていますが、ちょっと陰になる所は漆黒の間で、霰も判りません。

水の音が聞こえます。蠟燭を近づけると地底の川が見えます。何処から何処へ？神秘的です！あっ、仏秘的かあ。人工的に掘られたものなのになあ……。

さて行者道を辿って行くと、大きな伽藍に出会います。梵語や仏像、家紋などが側壁、天井に彫られています。この1kmに及ぶ洞窟が手で彫られたことも驚異的ですが、ここの彫塑も大



ゴク、ゴク、ゴク！美味しいです！



撮影禁止って書いてあるじゃないかよう！

変なパワーです。ここを掘り抜いたのは、真言密教の僧達だということですから。後ろを掘らなくて良いのは、少しは楽だったのかな？途中で落盤している箇所も随所で見られ、行き止まりの洞窟も幾つかありました。この台地は豊富な水源に恵まれているらしく、洞窟の脇に滝があり、湧き水も豊富で井戸や池が散在しています。

田谷の洞窟の由来は不明ですが、古くは古代人の横穴式住居跡だったとも言います。一般的には鎌倉時代の初期に多くが掘られたとあります。田谷山定泉寺の寺域には朝比奈三郎の館があり、信仰心が厚くこの洞窟内に弁財天を勧請しました。

建保元年に和田義盛が反乱を起し、この「和田合戦」で和田方に付いた朝比奈三郎義秀は、さんざん幕府を悩ませ、敗色が濃くなると何処へか姿を隠しました。この時、この洞窟の奥から落ちのびて行ったと言われています。この洞窟は、御霊神社に繋がっていたとか。(参考資料の間違いか？五霊神社か？掘ってある方向が違う。)

さて、前出の地図を見て頂くとクフのピラミッドのように、燈明寺、五霊神社、定泉寺、御霊神社が一直線に並んでいます。これは何を意味するのでしょうか？

今回は、横浜の関内に残る遺跡を紹介です。

そりゃあね、御影石などの固い地盤よりは楽だったでしょうけど、幾年も掛かったでしょうね。内には修行のための胡座結迦をする処もありました。胡座台座の前に水道が掘ってあって水が流れていましたので、最初は公衆トイレかと思っちゃいました。

不遜なこと、不遜なこと。中にはご愛嬌のように鶴亀の彫り物もありました。総てレリーフ状に彫られています。

不遜なこと、不遜なこと。

中にはご愛嬌のように鶴亀の彫り物もありました。総てレリーフ状に彫られています。



ああ、面白かったね、ライ隊員！